夏から秋への大学美術館 2002.7>>>2002.10

特別陳列 竹内久一と石川光明

明治の彫刻展

近代彫刻史に大きな足跡を残した二人の作家

横溝廣子

東京美術学校彫刻科初代教授であった竹内久一（一八五七―一九一六）の代表作である「伎藝天」は総高二八〇センチを超える鮮やかな彩色が施された木彫で、一八九三年（明治二十六）に開催されたシカゴ・コロンブス世界博覧会でも好評を博した近代彫刻史上重要な作品です。その鮮やかな彩色が経年変化による保存状態悪化のために展示することができず、その修復が永年の課題でした。

東京国立博物館の「海を渡った明治の美術―再見！ 一八九三年シカゴ・コロンブス世界博覧会（一九九七年開催）や当館の開館記念展「芸大美術館所蔵名品展」（一九九九年開催）では当然目玉の一つとなるべき展示候補として挙げられましたが彩色膜の剥落の恐れがあるために移動させることが不可能とみなされ、やむなく断念せざるを得ませんでした。

このたび平成十二年度より開始した修復がようやく完了し、そのご披露を兼ねた特別陳列を企画しました。伎藝天のほかに、その試作の首、一八九〇年（明治二十三）の第三回内国勧業博覧会で妙技二等賞を受賞した神武天皇立像、執金剛神立像（東京国立博物館所蔵）などの久一の大作、および当館所蔵の小品十数点を展示します。また、この機会に東京美術学校開校まもない頃から久一とともに大正時代まで彫刻科の教授を務め、やはり近代彫刻史に名を残す生誕一五〇年の石川光明（一八五二―一九一三）にもスポットを当てます。光明の作品としては伎藝天と同じシカゴ万博出品の「浮彫観音菩薩像」（東京国立博物館所蔵）と一九〇〇年（明治三十三）パリ万国博覧会に帝室技芸員として出品した牙彫の「古代鹿狩」（宮内庁三の丸尚蔵館所蔵）という彼を代表する二つの作品や、光明の作品としては異色の彫漆技法による漆屏風（当館所蔵）などの当館所蔵品を展示します。

明治時代において帝室技芸員に任命された彫刻家は高村光雲、石川光明と竹内久一の三人です。最も有名な高村光雲については、ちょうど開催中の回顧展「高村光雲とその時代」展（三重県立美術館・茨城県立近代美術館・千葉県立美術館・徳島県立近代美術館）にて当館所蔵の光雲作品が展示中であるため、今回の特別陳列には含むことはできませんでしたが、光雲ほどの名声を得ることがなかったにしても明治彫刻界に君臨し、追従を許さなかった二人の技をじっくりご覧いただければ幸いです。

（よこみぞ・ひろこ／大学美術館講師）

竹内久一「伎藝天」1893年

ウィーン美術史美術館名品展

～ルネサンスからバロックへ～

海外の一流美術館との交流の第一歩を記す

薩摩雅登

東京芸術大学大学美術館とNHKは、「ウィーン美術史美術館名品展 ～ルネサンスからバロックへ～」を、十月五日から十二月二十三日まで開催いたします。これは、開館三周年を記念する大規模な企画であるとともに、今後、海外の一流美術館との交流を深めようとする大学美術館の第一歩でもあります。

カール大帝の戴冠（八〇〇年）から千二百年を経てヨーロッパが再び統合への道を歩む今、十三世紀から七〇〇年の長きにわたって継承されたハプスブルク帝国は、ドナウ河周辺に栄えつつ汎ヨーロッパ的な性格を失わなかった王朝として、文化と伝統をあらためて見直されています。その栄光を歴史に刻むように収集・蓄積された美術品の数々は、現在ではウィーン美術史美術館の基幹コレクションになっており、歴代諸

公の趣味を反映してルネサンスからバロックの絵画に珠玉の名品がそろっています。

その中から精選された、デューラー、クラナハ、ティツィアーノ、ティントレット、ベラスケス、レンブラント、ルーベンスなど、約八十点で構成される今回の展覧会は、ヨーロッパの正統的な美術文化の香りをひさびさに日本で体験できる貴重な機会になります。

とりわけ学生諸君には、学内で開催されるという地の利を活かして、ここから少しでも多くのものを吸収してもらいたいと願います。

（さつま・まさと／大学美術館助教授）

ベラスケス「青いドレスのマルガリータ王女」1659年

クラナハ「キリストの磔刑」1501年

アルチンボルト「水」1566年

ティツィアーノ「法王パウルス3世」
1546年頃

展覧会予定

（2002.7〜2003.3）

大学美術館本館

芸大コレクション展
「靴屋の親爺」とその周辺
8月4日（日）まで
入場料300円

〜アフガニスタン文化財復興支援〜
「アフガニスタン－悠久の歴史」展
7月16日（火）〜9月16日（月）
入場料1200円

特別陳列「竹内久一と石川光明」
―明治の彫刻展―
8月13日（火）〜9月16日（月）
入場料300円

開館3周年記念
「ウィーン美術史美術館名品展
〜ルネサンスからバロックへ〜」
10月5日（土）〜12月23日（月）
入場料1300円

退官記念展（2教官）
1月9日（木）〜1月26日（日）
入場無料

第51回卒業・修了制作展
2月21日（金）〜2月26日（水）
入場無料

陳列館

（仮）大学院美術研究科博士後期課程研究発表展
12月〜2月の間
入場無料

（仮）吾妻兼次郎デッサン展
7月2日（火）〜7月12日（金）
入場無料

建築科椅子展
9月中　入場無料

（仮）研究室展（油画）
10月上旬〜10月中旬　入場無料

伊藤廣利遺作展
11月7日（木）〜11月24日（日）
入場無料

取手館

美術学部取手校地創作展
12月7日（土）・8日（日）
入場無料

※開館時間は、いずれも10時〜17時。月曜日休館。ただし月曜日が祝日の場合、開館する　ことがあります。

※展覧会の名称・会期については、変更することがあります。

※本学には駐車場はありませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。

※展覧会についてのお問い合わせ
東京芸術大学大学美術館
Tel.03-5685-7755
NTTハローダイヤル
Tel.03-5777-8600

※展覧会の紹介は、下記ウェブサイトでご覧になれます。
http://www.geidai.ac.jp/museum/